

令和元年 第8回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和元年12月18日(水)
午後4時～4時50分

2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室

3. 出席した委員 教 育 長 新 子 寿 一
教育長職務代理 山 崎 裕 行
委 員 田 中 保 和
委 員 近 藤 温 子
委 員 西 村 弥生子

4. 出席した職員 教 育 部 長 福 島 潔
教 育 監 岡 本 泰 典
健康福祉部長 石 橋 敬 三
教育総務課長 寺 川 款
指 導 課 長 石 田 智
社会教育課長 磯 部 賢 二
こども育成課長 石 橋 智 成
事務局教育総務課 栗 田 聖 子

5. 議事案件

議案第44号 柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： 令和元年第8回定例教育委員会会議を開会いたします。本日の会議録署名委員は、近藤委員でございます。よろしくお願いいたします。次に事前に送付やお渡しさせていただいております会議録につきまして、何点かご意見を伺っておりますが、その他、ございませんか。

委員： ありません。

新子教育長： ないようでございますので、会議録は承認することといたします。それでは、早速ですが、本日の議事に入ります。本日の議案は1件でございます。それでは、議案第44号につきまして、事務局石田指導課長より説明をお願いします。

石田課長： 議案第44号柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正について、指導課より説明させていただきます。今回の改訂についてですが、昨年度、それまで担当者が複数であるため、句読点の打ち方の基準がバラバラであったところを一定の基準で見直したことをはじめ、細かい段組みやフォーマットを統一するなど、大きく変更しましたので、今回の改訂は、大阪府教育委員会の市町村教育委員会に対する指導・助言事項における追記・変更事項を中心に、改めて担当で見直し、市の実情に適合した表現に少し修正を加える形で編集をしております。それでは、ページごとの主な変更点についての説明に移らせていただきます。お手元の冊子をご覧ください。カラープリンターが故障中でございますので、変更点につきましては、昨年度のように朱書き表示できませんでした。恐れ入りますが新旧対照表をご参照いただきますようお願いいたします。まず1、2ページにつきましては、昨年度の表現を踏襲しつつ全面的に書き直しをしております。新学習指導要領の本格実施をむかえ、重要なポイントとなる情報活用能力の育成についての現状を述べ、学力や体力の面では、直近の調査結果における分析を基にした記述にしております。4ページにつきましては、幼小中一貫教育において、校種間連携に加え、教員の専門性を発揮することと、今日的な課題への対応を視野に入れることを追記いたしました。5ページにつきましては、本年度策定しましたかしわらっ子はぐくみプラン第2期柏原市学力向上3カ年計画における3つのテーマと7つの取組について記し、年度表記の差替えをしております。6ページからの各学校園の取組につきましては、今後柏原市の教育で進めていくべきだと考えられる点を中心に、加筆及び修正を加えております。まず11番では、指導と評価の一体化や目標に準拠した評価に加え、学習評価の妥当性・信頼性を高める取組や評価活動について、組織的な検証改善の取組を実施するという文言を加えました。7ページ15番の道徳教育につきましては、小中ともに教科化2年目ということで、先ほどの学習評価の部分でも触れました指導と評価の一体化や、新学習指導要領においても求められている対話的な授業という文言を追記いたしました。18番の情報教育につきましては、後にある39番との重複する表現が見られましたので、前半部分を削除いたしました。8ページのキャリア教育につきましては、教科指導においても重要としている、自分の成長や変容を自己評価するための振り返る活動についても触れております。教員の資質向上の面では、11ページの42番で、社会の変化に対応するための知識・技能や国際社会で必要とされる資質・能力等の向上のためという文言を追加し、教員に求められる資質をより具体化いたしました。また45番では、個々の教員だけでなく、学校全体の取組を充実させるという文言を追加しております。18ページにつきましては、これまで幼稚園教育と表記しておりましたが、昨年度の本会議においてもご意見いただきましたように、令和3年度には市内初の認定こども園も設置されるという背景もあり、幼児教育と保育双方の視点から幼児教育という表記に変更しております。同様の理由で、新旧対照表では誤って反対に記載していますが、重点目標2つめの開かれた幼稚園づくりは開かれた就学前施設づくりに変えております。そして、本年度より民間の保育園や幼稚園を交えて柏原市就学前教育・保育カリキュラムの検討会も進めていますことから、具体的施策の7番目に民間の保育園、幼稚園との連携を追加しております。19ページの学校園運営を見直して校務の

効率化を図るためにこの項目では、働き方改革の視点をより明確にし、重点目標にワークライフバランスがとれた生活をするということという文言を、そして具体的施策には時間外電話の対応、研修の精選という文言を付け足し、校務の効率化には事務職員の協力が不可欠であることから、学校間連携の一層の推進という文言を、より具体的に事務職員の学校経営参画と置き換えました。26ページの柏原市男女平等教育基本方針では、新旧対照表からは抜けておりますが、1番の大阪府男女共同参画推進条例の後に、柏原市男女共同参画推進条例も加えさせていただきました。最後に、裏表紙の発行者の記載ですが、現在教育委員会が仮庁舎に移転中でございますので、住所もそのように変更しております。その他も細かい変更・修正はございますが、そちらにつきましては新旧対照表に記載のとおりでございます。私からの説明は以上でございますが、編集には他課からもご意見をいただいておりますので、補足等がございましたらよろしく願いいたします。

新子教育長： 新旧対照表をもとにですが、カラー印刷ができないということで、わかりにくい点もあったかと思いますが、いかがでございましょうか。

山崎委員： これは、教育委員会が年度当初に出す大事な書類で、全ての先生方に渡すわけですから、きちんとしておいた方がいいと思って、お話をさせていただきます。全体の構成は、昨年改訂でわかりやすくなりました。1ページと2ページの前文につきまして、上から6行目、そのように新しい時代を迎える中、現在国は、めざすべき未来社会の姿として、この点の打ち方が難しいですね、私なら迎える中、現在、国はめざすべき未来社会の姿としてと、こういくと思います。「国は」で点を打たないで、「現在」で読点を打ったかどうかと思いました。2つ目は、そこのところから4行下がったところ、「位置付けました。その背景の中」のところで、背景の中というのは非常に難しい言葉で、意味はわかるのですが、そういう背景がある、そういうところで、ということなんでしょうけど、背景の中というのは、あまり使わないかと、そのような中でというぐらいがちょうどいい、一番適切かなと思いました。それから、その背景の中からの文章で、「柏原の子どもたちにこれからの力を身につけるための環境整備を進め」のところで、切ってしまって、「進め、昨年度は7月から8月にかけて小中学校のパソコン教室のパソコンを最新型の機種に入れ替えました。」と終わったらどうかと思いました。切り方が反対だろうと思いました。「入れ替えました。」の次に、「また、教員に1人1台のパソコンを配備し、併せて校務支援システムも導入したことにより、」で文章としては、つながるのではないかと思います。先述のようにと次にありますが、その、「プログラミング教育などが本格実施となります。教員は「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、学び方に視点を置いた教育実践が求められ」のところで「教員は求められ」というのは、ちょっとしんどいなと、「教員には求められ」ですね。それから下から5行目、「下回りましたが、大阪府と同値となり、この5年でもっとも良い結果となりました。」のところで、丁寧にいくなら、「5年間で」と間を入れた方が意味はわかると思います。次に1ページの一番最後、「これからは「書く力」のみならず問題の趣旨を的確に「読み取る力」の向上と依然として課題である家庭学習の定着を図るために」のところで、「読み取る力」の向上と、家庭学習の定着というのは、同列に扱えないのではないかと、たとえば、「読み取る力」の向上と、「計算力」の向上を図るた

めに、というのであれば、なるほどなと思いますが、「読み取る力」の向上と家庭学習は、ちょっと違う並びだろうと思いましたので、私だったら、「向上と、質問紙調査からわかった依然として課題である家庭学習の定着」という風に、「質問紙調査からわかった」というのをひとつ入れれば、学テで学力の面で、「書く力」のみならず、「読み取る力」の向上という、これと質問紙調査からわかった家庭学習も大事なんだなと、こういうのをちょっと入れてみたらどうかと思いました。4行目、最後の「確かな学力をはぐくんでいきます。」のところで、はぐくみプランは、ひらがなのはぐくみですが、ここのはぐくんでいきますは、1ページの一人ひとりに生きる力を育んでいきますとありますので、ここは、漢字にした方がいいかと思いました。地域全体で「遊んだり運動したりすることが好きな子」だとか、学ぶことが楽しいとかいう言葉も入っているので、とてもわかりやすい前文になったと思いました。それから、6ページの2番、校長は憲法・教育基本法の理念に徹し、学校経営目標を明確に設定するとともに、教職員に周知し、学校園の教育目標の共有化を図るの「図る」に下線が見えているんだけど、これは、ミスですか。

石田課長： コピーのミスだと思います。

山崎委員： それから、4番、学校園の教育活動を家庭・地域に開き、また、家庭・地域の教育力を利用するなどの「利用する」は、ちょっと失礼かなと、「活用する」の方がいいと思いました。それから「生きる力」の育成をめざす教育活動の8番、これは、意見なのですが、授業日数、あるいは学校行事等を考慮する、授業時数確保という問題があります。小学校で新しい指導要領が始まる、また、次に中学校が始まります。こういう中で、学校での取組なのですが、各学年の授業時数や各教科等の授業時数が適切に確保されるよう、と求めているんだけど、これは教育委員会としても時数確保のために、来年度はいろいろ手を打たないといけないなと、工夫をしないとなかなか難しいだろうなと思いました。これは、意見です。それから、11ページ、これも意見です。42番は、教職員の資質向上ということなんですけど、今後の社会の変化に対応するための知識・技能、これは前から言われてきたことだから、教職員にはこういうことが求められていると思うんだけど、国際社会で必要とされる資質・能力等の向上のためと、すごい教員が求められているんだなと思って、教育委員会も頑張ってください。こんな教員を作らないといけないんですね、国際社会で必要とされる資質・能力を持った教員を育てると、すごいなと思って見ておりました。それから44番、教職経験年数の少ない教員の育成。この前、柏原小学校の研究会に行かせていただきました。若い先生ばかりでびっくりしました。柏原小学校、他の学校も行ったのですが、あんなに若い先生が多くはなかったなと見ていたんですが、柏原小学校は、若い先生が多いなと思って見ておりました。これは、やはり教職経験年数の少ない教員を育てるというのは、学校だけには任せられない現状だと思います。教育委員会としても、こんな手立てを打ちましたと、また、工夫をしましたなどと、来年度は教えていただけたらと思います。それから、18ページ、これは、さきほど課長がおっしゃったように、開かれた就学前施設づくりと書いてあるから、これはこれでいいのですね。新旧対照表が間違えていたのですね。それから19ページ、具体的施策の6番、事務職員の学校経営参画という部分なんですけど、私は前々からそういうことを思っておりまして、学務課

長をさせていただいたり、教育部長をさせていただいたり、柏教研の事務職員部会に入っ
て、私が直接話をしてきました。事務職員の学校経営参画というのは、先ほど課長からも
お話があったんですが、具体的にどんな学校経営の中の参画で考えているか、教えていた
だけたらありがたいと思います。

石田課長： ありがとうございます。学務課長とも話をしておりますが、たとえば、部活動、
このたび方針も変わりまして、あまり子ども達に負担なく、また、教員に負担なくという
ことが、中学校の部活動、土日は、手当なんかも計算をしているのは、全部事務職員なん
ですね、事務職員がそれを見ていただくことによって、このクラブはやりすぎているんじ
ゃないかとか、事務職員を通じて入ってくるということで、まず事務職員と連携をするこ
とによって、教員の働き方改革につなげることができるという、ひとつの例ですが、こう
いうこともありまして、事務職員が学校経営に参加していただいて、進めるためにはいい
のではないだろうかと考えております。

山崎委員： 私は、事務職員にあなた達は、文書の整理と、給与、旅費をやっているだけで
はだめですよと、校長先生教頭先生と一緒にあって、学校づくりをなささい、具体的にこ
ういうことをなささいという話をしました。また、学務課長ともお話をさせていただいて、
事務職員をうまく使って、それこそワンチームで、学校経営していくと考えられたらどう
かと思います。ありがとうございました。

新子教育長： 事務職員の参画というのは、学務課長からも相談を受けたんですが、今まで
もいろいろ意見もいただいておりますが、この時点でどうですかということだったので、
入れましょうということになったんですけど、先生がおっしゃったように随分、管理職の
意見であったり、管理職が知らない部分をご提言いただいたり、非常に助かっている部分
もありますので。

岡本教育監： 一点だけよろしいでしょうか。今、山崎先生がおっしゃったように、今も事
務部会に学務課も入り込んでおります。今年は校務支援システムをコンピューターで入れ
たんですけど、そのあたりの様式の統一であるとか、学校の負担を減らすために、積極的
に声をあげていただいております。そういう積極的に動いていける環境ができております
ので、より進めていただきたいという意味で、入れさせていただいたんですけれども。

田中委員： 先ほどの説明の時に聞き逃したかもしれないんですが、今のところで、学校間
連携の一層の推進は、省いたというのは、他に含まれているからですか。

石田課長： もう、言うまでもないのかということもございましたので、それより具体的に
ということで、今回省かせていただきました。

新子教育長： 他、よろしいでしょうか。

近藤委員： 質問なのですが、2ページのところの2段落といえますか、真ん中より少し上
で、生徒指導の面では、児童・生徒一人ひとりが現在及び将来における次の段、自己指
導能力というところ、この自己指導能力がこの文章からある程度わかるのですが、これは、
最近学校から言われていることなんでしょうか。もうちょっと、内容を詳しく教えていた
だきたい。

石田課長： よく言われている言葉というか、教職員の中では、使われている言葉というこ

とがいえると思います。自立という意味であつたり、自身で自分のことを律するというよう、高めていくというような意味合いをこめて、使う言葉ではあります。

田中委員： 自己実現に向けて、自らそこへ向かうための能力を養うということで、専門用語でよく使われます。

西村委員： 18ページで開かれた就学前施設づくりが、改正法では幼稚園づくりで、この冊子では就学前になっているのですが。

石田課長： 正誤表が間違っておりまして、逆になっておりました。

西村委員： 読みやすさという点で、黒かぎ括弧というんですか、これが大きい題名でついているんですが、たとえば、5ページからの中心施策の下の下の目標とかの細かい項目は全部黒かぎ括弧になっているので、何かちょっとわかりにくいかなと思います。どれが主軸なのか、わかりにくいです。

田中委員： 今のに関連して、4ページの中心施策と5ページの中心施策は、ちょっとポイントが違うように思いますが、一緒なんですかね。差が大きいからそう見えるのですか、わかりました。

西村委員： 前半の重点目標が数字で打ってあるのですが、12ページ以降の後半の重点目標は白丸でというのは、何か意図があるのですか。

石田課長： 意図はございません。ここは、訂正します。

田中委員： 特別の教科、道德のところで、道德が教科になったら、道德の時間ではなくて、道德の授業になるのではないかと、7ページ15番。教科になったら授業になるのかなと思ったので。授業だと思うんですが。

山崎委員： 時間とかいらないのではないかと。道德で終わればいいのか。

新子教育長： 時間を消すと。他、よろしいでしょうか。今、ご指摘をいただいた部分について、一部修正ということで、承認してよろしいでしょうか。

委員： はい。

新子教育長： それでは、議案第44号柏原市学校教育基本目標ならびに重点目標の一部改正については、一部修正の上、承認することにいたします。議案については、以上です。このあと、報告事項がございます。

(スポーツ推進課よりオリンピックについて報告)

以上で、令和元年第8回定例教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員